

## [北海道産交流会議]

平成19年3月9日、選定地域、行政、北海道遺産応援団の企業・団体の方々など約120名のご参加をいただき、「平成18年度 北海道遺産交流会議」を札幌で開催しました。観光による地域振興が各地で課題となるなか、北海道遺産にも観光資源としての期待が高まっています。そこで今回は「地域資源を活用した観光振興」をテーマにシンポジウム形式での実施としました。ここでは基調講演とパネルディスカッションの議事録を掲載します。

### 基 調 講 演

## 「北海道の観光創造の可能性」

石森 秀三（北海道大学観光学高等研究センター長・教授）



60年間、関西で過ごしておりましたが、昨年の4月に北海道に参りました。旧国立大学において、観光学というものは制度的に軽視されてきたようなところがありましたが、全国の国立大学法人のなかで北大が先がけて観光学の高等研究センターを設立し、この4月からは観光創造専攻という新しい大学院が立ち上がることとなりました。

北海道遺産の存在は北海道に来る前から知っていて、こういう動きをされたことを高く評価しておりましたので、今回お招きいただいたのは大変光栄に存じております。この北海道遺産がなぜ北海道にとって重要となるかということについて、観光学の立場からお話させていただきたいと思います。

### ■観光立国の時代

どちらかという観光後進国であった日本が、2003年7月に忽然と観光立国宣言を行いました。そのきっかけは、2003年1月に設置された観光立国懇談会です。観光を国家的課題として捉えなおすということで私もメンバーに選ばれ、議論を重ねてきました。懇談会では起草委員を命じられましたので、観光立国の理念について起草させていただきました。日本も観光を国家的課題として位置づけ、各省庁が観光に関連する政策・施策・事業の展開を図っているところです。

### ■いまなぜ観光立国か？ ①国際的な必然性

今、なぜ観光立国が必要なのか、理由はふたつあります。